

明倫館だより

第53号
平成22年5月1日発行
発行人 井上晴雄
財団法人 南豫奨学会
南豫明倫館
〒184-8586
小金井市中町 4-18-26
TEL 042-383-9835(代)

たまきはる
命はあはれ短きに
などかくまでに
怠けんとする

大塚仲町侯爵伊達家明倫館
初期館生 中平 解

財団法人 南豫奨学会「奨学金支援会」
御礼並びにさらなるご支援を



財団法人南豫奨学会・理事長
奨学金支援会会長 伊達 宗信

このたび財団法人南豫奨学会理事長並びに・奨学金支援会会長に就任いたしました。伝統と実績のある本財団の運営に携わることによって、郷里子弟の育成と南予地区の発展に若輩ではありますが、微力を尽くさせていただきます。平成21年度の奨学金支援会の募金状況は裏面にご報告の通り、昨年度は例年より残念ながらやや少ない実績に止まりましたが、22年度も多数の奨学金貸与希望者があり、今後より活動を活性化させ、期待に添えるよう頑張っております。よろしくご支援の程お願い申し上げます。



希望に燃え、可能性を信じ 五人が卒寮

卒寮生氏名(大学名・出身地)進路
一、将来の抱負 二、後輩への助言

井上 拓哉(早稲田大・第一文学部、愛南町) 在学

一 今後は、もう一年学校に残り就職活動をする予定です。もう一度自分を見つめ直し、悔いの残らない道へ進みたいと思います。

二 大学時代はよく遊べと言いますが、それだけ信じて行動しないように。遊びで学んだことをアウトプットできる力を身に付けて下さい。

井上 晋太郎(拓殖大・政経学部、大洲市) 留年

一 私は現在国家公務員Ⅱ種試験合格を目指して大学で勉学に励んでおります。社会に貢献できる人材になるべく精進していく所存です。

二 色々な人や物事に触れて自分の糧にしてください。経験に基づいて自分の話ができるようになる人間性が増すと思います。

久保 文亨(専修大・商学部、宇和島市) 宇和島信用金庫

一 地元である愛媛県で活躍できる人間になりたいと思っています。そのために目の前のことを一つ一つ一生懸命やっています。

二 大学生活ではいろいろなことにチャレンジして楽しい大学生活を送って下さい。

住田 篤志(日本大・経済学部、宇和島市) 株式会社愛媛銀行

一 この南豫明倫館で学んだ事を生かし、故郷愛媛を支え、また発展に役立つ社会人になりたいと思います。

二 あいさつ、思いやりといった寮生活において当たり前である事を疎かに絶対せず有意義な学生生活を送って下さい。四年間本当にありがとうございました。

丹 峻也(東京工科大・バイオニクス学部) 進学

一 今年度から公務員の予備校に通い、小金井市役所職員を第一志望とし勉強に励みます。小金井市民として住みやすい町作りに努め、また、明倫館に貢献したいです。

平成22年度 前期自治委員会

▷ 寮長	二宮 壮之介
▷ 副寮長(西)	赤松 優
▷ 〃(東)	土居 富裕
▷ 整備(西)	正木 辰典
▷ 〃(東)	二宮 昇平
▷ 風紀	沖野 恭彰
▷ 広報	大森 慎太郎
▷ 企画	渡邊 大祐
▷ 情報	越智 恭平
▷ サロン	河野 克明
▷ 会計	堀田 遼

今号の言葉
「たまきはる命はあはれ短きに
などかくまでに怠けんとする」

「南豫明倫館」二八五ページにある中平解の歌。意味は至って明快「命なんて短いものなのに、なんでこうも怠けようとするのか、これでは駄目だ」という自省、自戒の叫びだ。

中平解は、愛南町一本松に生まれ、宇和島東高等学校の前身、宇和島中学第二十二回生(大正十年卒)から上京、東京帝国大学文学部フランス文学部在学中に南豫明倫館の前身「大塚仲町の侯爵伊達家明倫館」に入った。大学へは歩いて通えたが、ときどき正門まで来て、急に入るのが嫌になり、明倫館に引き返し、ふて寝してしまおうという普通の学生だった。だが、のちに「フランス語学、フランス背景学」の研究で文学博士となり、東京教育大学文学部長はじめ各大学教授を歴任した。専門分野のほかに、歌人、随筆家として後進の範になった。郷里や明倫館時代の随想が多い。平成十三年十一月、九十七歳の天寿をまっとうした。

寮生諸君。若いうちは人生航路の迷走もときにはあるだろう。他人に迷惑をかけることなき迷走、これもやむをえないだろう。ただ、君の人生も、決して長くはない、繰り返し自省自戒し進んで欲しい。どうかね？

脱線するが、中平解先生の宇中同期には、郷土の俳人芝不器男もその一人である。君の人生も、仲間同士の切磋琢磨によって鍛えられることを忘れないでほしい。

南豫明倫館長 木下 博民

平成22年度主要行事予定

平成22年

- 4月 1日(木) 平成22年度新入寮生20名入寮
- 4日(日) 新入寮生歓迎花見
バーベキュー開催
- 10日(土) 公益法人制度改革研究会開催
- 11日(日) 寮則説明会・部屋回り開催
- 18日(日) 平成22年度第1回常務理事会
新入寮生歓迎会
- 5月 7日(金) 監査役会
- 20日(土) 公益法人制度改革研究会
- 6月 5日(土) 平成22年度第1回定例理事会開催
- 7月10日(土) 第2回常務理事会開催予定
- 8月 2日(月) 夏期休暇開始
- 14日(土) 夏期休暇終了
- 10月 8日(金) 入寮説明会開催予定(於宇和島)
- 9日(土) 奨学生面接・高校長懇話会開催
- 11月23日(祝) 第3回常務理事会開催予定
寮祭開催
- 12月 4日(土) 第4回常務理事会(忘年会)開催
- 25日(土) 冬期休暇開始

平成23年

- 1月 8日(土) 冬期休暇終了
- 1月22日(土) 平成22年度第2回定例理事会開催
- 2月20日(日) 第5回常務理事会・卒寮生歓送会
- 3月12日(土) 書類審査・第6回常務理事会開催
- 3月19日(金) 面接選考会

フットサル交流会を主催して

渡邊 大祐
南豫明倫館専修大学 法学部 二年

今回、他の寮との交流を図るという目的でフットサル交流会を行いました。

当日は、悪天候のため屋外でのフットサルを行うことができませんでしたが、屋内で十分に試合をして他の寮と交流が図れたのではないかと思います。今回は私たちが主催するということがあり、他の寮と比べても先輩から後輩まで幅広く参加していて、今年で卒業された先輩方にとっても最後の思い出になったと思っています。

実際の試合では交流会という目的ではありましたが、どの寮も試合中は真剣に試合をしており、自分たちが試合をしているときだけでなく、観戦している時も、みなが盛り上がりつつ楽しんでいくことができました。結果としては接戦ながらも

財団法人南豫奨学会

「奨学金支援会」だより

(表1) 平成21年度支援会申込者数並びに募金結果 (平成22年3月31日現在)

	申込者数(人)	募金額(円)
理事・監事他	14	430,000
評議員	28	540,000
OB	24	325,000
現父兄	1	10,000
一般	17	205,000
法人	3	120,000
市町村	1	50,000
合計	88	1,680,000

※一般には元父兄含まれます。

(表2) 平成22年度支援会申込者数並びに入金状況 (平成22年4月1日現在)

	申込者数(人)	募金額(円)
理事・監事他	7	230,000
評議員	5	130,000
OB	15	185,000
現父兄	0	0
一般	7	65,000
法人	0	0
市町村	0	0
合計	34	610,000



我が、明倫館が優勝することができ、チームとしての盛り上がりもよく今回の交流会を通じて寮間だけでなく寮内でも仲がよくなったのではないかと思います。先輩、後輩関係なくプレーやベンチで試合を盛り上げることができ寮の雰囲気はとてもいいものと感じたような雰囲気寮をこれからも維持していけたらいいと感じます。主催者側として、準備する期間が少なかつたため、十分な準備をすることができませんでした。が、そういった状況において、大勢の人数の前で指揮を執ることの難しさを実感することができ、自分としてもいい経験ができたと思います。

交流会をする上での改善点として、今回は初めてということもあり他の寮の集まりがあまり良くなかつた残念でした。また交流会を運営していく上でも各寮の積極的な参加が必要だと感じました。話し合いではなくスポーツの交流会なので、各寮そのスポーツをする上での最低人数を確保してもらえるとより寮の交流会としての質が高まると感じました。

今回のフットサル交流会は各寮の交流を図る第一歩なので、これからも定期的に行っていきたい。明倫館も今回のような交流会に積極的に参加していきたい、交流会や寮内の雰囲気も盛り上げていきたいと思っています。

フットサル交流会に参加して

高橋 真吾
富山県学生寮(東京大学 文科一類 一年)



この度は、フットサル交流会を企画、運営していただいたありがとうございます。当日はあいにく、天候が優れなかつたものの、進行の滞りもなく存分にフットサルを楽しめたこと、寮生一同満足しています。今回は初めての試みということもあり、各寮の代表者間以外ではあまり個別での交流ができなかつたので、ぜひこれからもこのような集まりを続けてさらなる交流を図っていくべきだと思います。また今回はフットサル交流会でしたが、スポーツに限らず多方面で交流、意見交換ができればよいと考えています。ただ、今回は若干急な企画で呼びかけの期間が短かつたことや長期休暇中だったこともあり、あまり人数が集まらなかつた寮がいくつかあり少し残念でした。よって、次回は前もって密な話し合いの機会をとり、できるだけ多くの寮生が参加、交流できるように協力していきたいと思います。ところで今回はA班の寮同士での企画でしたが、これからこのような企画を続けていくにあたって、規模を拡大するかどうかという話が前回の話し合いで上がっていたと思います。個人的には広く交流を持つことはよいことだと思いが、その場合お互いの都合や場所の問題が出てくるので、当面は今回のような規模で交流を行い、代表者間以外でも個別のふれあいを深めていければと考えています。以上の内容や次回の内容や次回開催に関して、また近いうちに話し合いたいと思うのでその際は何卒よろしくお願ひします。

フットサル交流会に参加して

若山 泰樹
青森県学生寮(法政大学 社会学部 二年)

まず初めに、主催してくださった南豫明倫館の皆さんに心から感謝申し上げます。

当日は悪天候に見舞われたうえ、集合が遅れ試合開始時間が延びるなどのトラブルもありましたが、無事に終えることができたのも臨機応変な運営をしてくださったお陰だと思っております。私たちはちょうど五人で参加したため、体力的には厳しいものがありましたが、試合全体はおおいに楽しませていただきました。全体としても大きな事故はなかつたようです。場の雰囲気は良かったのではないかと思います。

反省点を挙げるとすれば、青森県学生寮はもろろ各寮がもつと運営の補助をするべきだったという点です。結果的に南豫明倫館の皆さんにすべてお任せすることになってしまい、申し訳なく思っております。次に開催の際は、役割分担の部分にもう少し踏み込んだ話し合いをしたいと思います。

また参加費について、主催者側が全額負担するのものと方法ですが、多少参加費を徴収しても問題はないと思います。どちらにせよ、これから各寮が持ち回りで主催するのであれば、費用負担における一定のルールを決めて、それを各寮で共有する必要があるのではないのでしょうか。今回はスポーツを通じた交流ということ、ひとつ大きな意味をもった取り組みであったと思います。それと並行して、各寮の委員長や寮長など、寮の自治活動に携わる学生を対象に、行事の充実化、寮内の活性化を目指した情報交換会を開催するのも面白いのではないかと、交流会への参加を通じて感じました。

今回の交流をきっかけに、今後新しい提案や取り組みがおおいになされるはずだと思います。フットサル交流会はその第一歩として今後につながるものになったと思いますし、その交流会に参加できたことを、とても幸せに感じています。参加した以上は、交流を通じて学んだことをあらゆる方面で活かしていきたいです。

今回はこのような交流会を実現してくださり本当にありがとうございます。今後ともよろしくお願ひ致します。

「寮生としての自覚」

自治委員長 二宮 壮之介
東京農工大学(農学部) 二年

今期の委員長をさせていただく中で目標とすることは、寮生一人一人が寮生としての自覚を持った行動をすることです。この目標は前委員長の鈴木先輩も目標とされていたことですが、まだ寮にすっかり浸透していませんと感じこの目標を考えました。

現在、寮では不自由なく、仲良く生活できています。しかし、食堂やトイレ、風呂場など共同で使用する場の使い方が良くありません。自分以外に使用する人がいること、清掃してください人のことを考えた行動がとれていません。他の人に迷惑をかけない、感謝の気持ちを持って行動することが大切だと考えております。

もうすぐ、新入寮生が入ってきます。その新入寮生に尊敬され、目標にしたいと感じてもらえるように寮生としての自覚を持った行動をすることが在寮生にとって大切だと感じています。より良い寮にするために、また共同生活の場で人間的に成長できる寮にするために尽力していきたいと思っております。

編集後記

伊達宗信新理事長が誕生、当館も二十一世紀にふさわしい体制が整いました。これからは伊達家十三代ご当主としても専任されますから皆様と接する機会も増えていくと思われまます。

平成二十二年度は二十一名の新入寮生があり、二年生十四人、三年生十九人、四年生七人、大学院生一人、研究生三人と合わせ、合計六十五名という、満室状態になりました。

当館主催の全国学生寮協議会A班の「フットサル」対抗戦を開催しました。青森県学生寮、高岡市荻布学生寮、富山県学生寮、佐賀育英会松濤学舎、鹿児島奨学会同舎計六寮の学生が多数集い、意義ある交流会ができました。